

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成23年4月21日(2011.4.21)

【公表番号】特表2003-522185(P2003-522185A)

【公表日】平成15年7月22日(2003.7.22)

【出願番号】特願2001-557903(P2001-557903)

【国際特許分類】

C 0 7 K 14/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/12 (2006.01)

A 6 1 P 31/18 (2006.01)

A 6 1 P 31/20 (2006.01)

A 6 1 P 31/22 (2006.01)

C 0 7 K 7/06 (2006.01)

C 0 7 K 7/08 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 K 14/00 Z N A

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 31/18

A 6 1 P 31/20

A 6 1 P 31/22

C 0 7 K 7/06

C 0 7 K 7/08

A 6 1 K 37/02

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年2月28日(2011.2.28)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 5】

表 1 に示したように、配列番号 1 から 4 は、共有結合した溶解性タグを有している。本発明は、共有結合した溶解性タグを部分的に含むと共に、以下の配列： $(X_1)_n - A - A - V - A - L - L - P - A - V - L - L - A - L - L - A - P - (X_2)_m$ （配列番号 1 4）または  $(X_1)_n - P - A - V - L - L - A - L - L - A - (X_2)_m$ （配列番号 1 5）（式中の  $X_1$  および  $X_2$  は、各  $X_1$  および各  $X_2$  が同じまたは異なる電荷のアミノ酸残基であることができる、一つ以上の荷電アミノ酸残基（例えば、K、R）から選択され；式中の  $n$  は、0 または 3 から 10 の値を有し、 $m$  は、0 または 3 から 10 の値を有し、この場合、一つの実施形態において、 $m = 0$  または  $n = 0$  のいずれかである）を有するような新規抗ウイルスペプチドに関する。溶解性タグの一つの例は、R - R - K - K（配列番号 1 6）である。好ましい実施形態において、溶解性タグのすべての荷電アミノ酸残基は、正電荷のアミノ酸残基である。本発明者は、不溶性膜通過性ペプチドが、溶解性タグに結合した時、広範囲のウイルスに対して強い抗ウイルス活性を示す抗ウイルスペプチドを生ずることを意外にも、思いがけなく発見した。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 6 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 6 8 】

実施例 9 - 抗ウイルスペプチドのインビボ活性

本発明の抗ウイルスペプチドは、局所的に塗付した時、インビボ活性を示す。H S V - 1 株 K O S を、室温で、P B S 中、2 5  $\mu$  M の濃度の E B ペプチドまたは E B X ペプチド、いずれかとともに、1 時間インキュベートした。次に、本発明者が以前に記載したように ( B r a n d t ら、J . V i r o l . M e t h . 3 6 , 2 0 9 ( 1 9 9 2 ) ) 、各々 1 0 匹のマウスのグループの角膜を犠牲にして、5 . 0  $\times$  1 0 <sup>5</sup> のブランク形成ユニットを用いて感染させた。